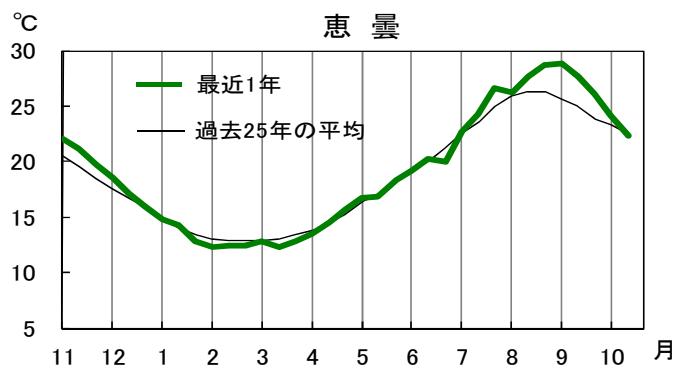
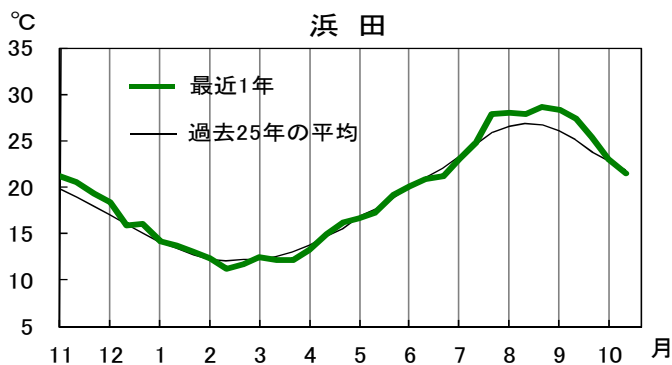




《9～10月の海況》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	27.0℃	+2.0℃	かなり高め
恵曇	27.5℃	+2.7℃	はなはだ高め

沿岸定地水温は、浜田地区では9月は「かなり高め～やや高め」でしたが、10月上旬に入り「平年並み」に転じ、中旬時点で「やや低め」で経過しています。恵曇地区では9月から10月上旬まで「かなり高め」で継続し、10月中旬に「平年並み」になりました。



《9月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではサバ類、サワラ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではカタクチイワシ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。マアジの漁獲量は、どの地区においても平年を下回りましたが、サバ類の漁獲量は各地区において平年を上回りました。また、県東部では、月別のカタクチイワシ漁獲量が過去10年間で最大となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の98%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は403kgで平年並みでした。西郷地区（属人5トン以上）でもケンサキイカ主体（全体の94%）の漁況となり、1隻1航海あたりの漁獲量は180kgで平年を上回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではケンサキイカ主体の漁況でした。1統1航海当たり漁獲量は12.5トンで、平年並みの水揚げとなりました。ケンサキイカは前漁期に引き続き好調に推移し、平年の1.3倍の水揚げがありました。一方、カレイ類は低調で平年の6～7割の水揚げに留まりました。このほか、アカムツは平年の1.9倍の漁獲がありました。小型サイズが主体であり、大型～中型サイズは低調に推移しました。また、キダイ、アナゴ類は平年の1.3～1.5倍の水揚げがありました。

【小型底びき網漁業】

和江地区ではケンサキイカ主体、久手地区ではケンサキイカ、ニギス、アカムツ、キダイ主体の漁況でした。1隻1航海あたりの漁獲量は、両地区とも前年を下回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。ケンサキイカは両地区とも平年の1.1～1.3倍の水揚げがありました。また、アカムツも小型サイズ主体ながらまとまった漁があり、好調に推移しました。

【定置網漁業】

石見地区ではサワラ類、その他のマグロ類、カマス主体の漁況で、1統当りの漁獲量は20.5トンとなり、この時期主体となるマアジが平年の5割、ケンサキイカ、ブリが4割に留まったものの、サワラ類が1.5倍、その他のマグロ類、カマスが好調であったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ、ホソトビウオ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は13.2トンとなり、この時期主体となるマアジ、ブリ類が平年の3割に留まったものの、サワラ類が1.4倍、ホソトビウオが10倍以上の水揚げとなり、結果として全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではサバ類、ウルメイワシ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は24.8トンとなり、全統の総漁獲量は平年を上回りました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、メダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は24kgで平年を下回りました。出雲地区ではケンサキイカ、マダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は27kgで平年並みでした。隠岐地区ではケンサキイカ、ソデイカ、マダイが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は44kgで平年を上回りました。どの地区でもケンサキイカ主体の漁獲ですが、漁獲量は隠岐地区だけが平年を上回り（平年比259%）、石見地区（同50%）および出雲地区（同67%）では平年を下回りました。

【平成 24 年 9 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	サバ類、サワラ類	230 トン	138%	91%	3.8 トン	129%	102%	○
	西郷	カタクチイワシ、サバ類	6,731 トン	193%	197%	41.1 トン	184%	202%	◎
	浦郷	カタクチイワシ、サバ類	2,799 トン	152%	194%	73.8 トン	174%	181%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	255 トン	65%	76%	403 kg	91%	102%	○
	西郷	ケンサキイカ	53 トン	100%	160%	180 kg	75%	130%	◎
沖合 底びき網	浜田	ケンサキイカ、ムシガレイ	299 トン	96%	88%	12.5 トン	112%	109%	◎
小型 底びき網	久手	ケンサキイカ、ニギス、アカムツ、キダイ	193 トン	83%	77%	754kg	80%	94%	▲
	和江	ケンサキイカ	325 トン	88%	94%	850kg	86%	104%	○
定置網 (大型)	浜田	サワラ類	36 トン	78%	101%	1.6 トン	110%	116%	◎
	美保関	サワラ類、ホソトビウオ	59.9 トン	122%	84%	696 kg	98%	86%	○
	浦郷	サバ類・ウルメイワシ	42 トン	740%	435%	1.9 トン	740%	544%	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ	16 トン	58%	73%	36 kg	63%	80%	▲
	大社	ソデイカ、ケンサキイカ、ブリ	9 トン	89%	75%	24 kg	108%	105%	○
	西郷	ケンサキイカ、ソデイカ、カサゴ・メバル類	25 トン	172%	140%	57 kg	152%	147%	◎

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは平年比を－とした

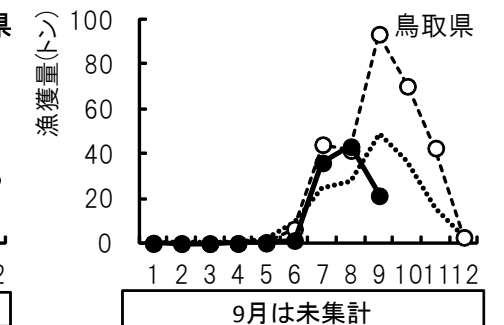
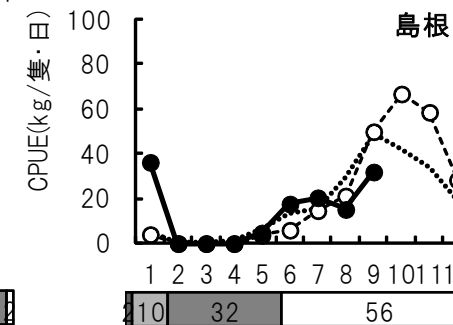
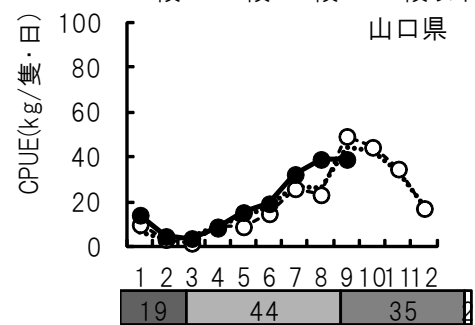
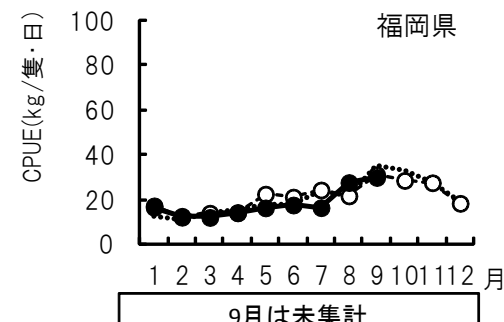
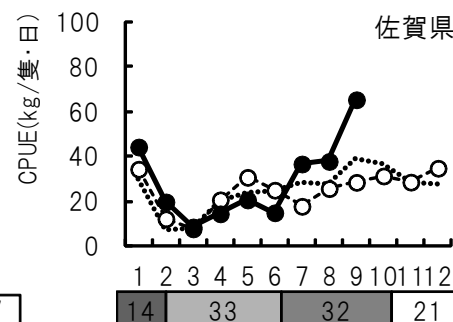
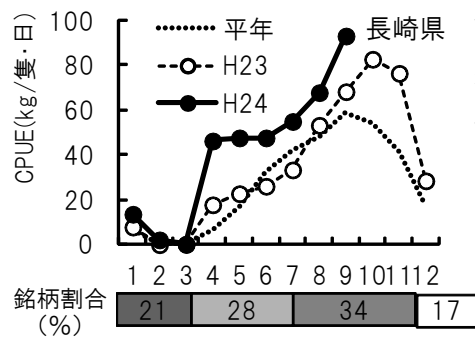
【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I:9月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	9月の漁獲量については暫定値ですが、豊漁だった昨年を大きく下回り、平年も下回る値となりました。漁業者からは、昨年と比べると漁場が局所的に分布する傾向があるとの声がかかります。
島根県	主要7港の水揚量は349トンで、平年並みで、前年を下回りました(前年比63%、平年比81%)。
山口県	漁獲量は前年比56%、平年比51%で、前年・平年を大きく下回りました。
福岡県	漁獲量は前年比106%、平年比82%と、前年並で平年を下回りました。(出漁隻数は平年並)
佐賀県	標本漁協の漁獲量は前年比225%、平年比148%で、前年・平年を上回りました。
長崎県	対馬標本漁協の9月の漁獲量は前年、平年を上回りました(前年比2.7倍、平年比1.8倍)。



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

II:10月上旬の底層水温

鳥取県	100m以浅の海域の底層水温は16℃以上ありました。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は3~7℃で「やや低め~平年並み」、高山沖は3~21℃で灘側は「やや高め」、沖側は「平年並み~やや低め」でした。
山口県	底層水温は11~22℃台で、平年並みからやや低めでした。
福岡県	沿岸域は21~23℃台と平年並み、沖合域は16~20℃台と平年並みとなっています。
佐賀県	対馬東水道の底層水温は、15.3~22.6℃でした。壱岐水道の底層水温は22.6~22.9℃で平年並みとなりました。
長崎県	観測データはありません。

